

# 令和8年度 県立結城第一高等学校自己評価表

<p>目指す学校像</p>	<p>校訓「自彊不息」(じきょうやまず：自ら努めて励み、事に当たっては全力を尽くして怠らないこと)を精神的支柱とし、知育・徳育・体育の健やかな成長を図り、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。</p> <p>(1) 教育内容や指導方法等の工夫・改善により基礎・基本の確実な定着を図るとともに、自ら学び自ら考え実践する力を育成する学校</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立を図るとともに、道德教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を育成する学校</p> <p>(3) 特別活動や体験学習等の活性化により、健やかな心身を育成する学校</p> <p>(4) 生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す学校</p> <p>(5) 帰国・外国人生徒の教育の充実を図るとともに、日本文化や異文化への理解を深めた国際感覚豊かな人材を育成する学校</p> <p>(6) 保護者・地域社会等と連携・協力しながら、常に教育活動の改善・充実を図る開かれた学校</p>	
<p>三つの方針</p>		<p>具体的目標</p>
<p>三つの方針」(スクール・ポリシー)</p>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>(1) 自ら学び、自ら考え、実践することができる。</p> <p>(2) 組織や社会における規範や法を理解し、相手に配慮したコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>(3) 社会の一員としての自らの責任を自覚し、行動する(働く)ことができる。</p> <p>(4) 自他の多様性を理解し、受け入れ、集団での行動を通して学び合うことができる。</p> <p>(5) 目の前の(地域の)課題を発見し、解決に向けて行動することができる。</p>
	<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>(1) 「分かる授業」を推進するため、単位制の特性を最大限に生かし、生徒の多様な進路希望に対応した教育課程を編成するとともに、少人数授業やT Tの積極的な活用により、個に応じた学習支援の充実を図る。</p> <p>(2) 授業改善の組織的な推進と教育の質の向上のため、授業改善推進プロジェクトチームを中心として、全教員が主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組み、鬼怒商業高校との遠隔授業等を通じた先進的・効果的な指導を推進する。</p> <p>(3) 計画的・組織的なキャリア教育を実現するため、3年間を見通した個別指導の徹底を図るとともに、外部機関や近隣企業と連携したガイダンス等を工夫し、自己理解・他者理解に基づくコミュニケーション能力の育成を目指す。</p> <p>(4) 各学年・年次の方針を一致させた組織的な支援体制を構築し、教育相談の充実やいじめの早期発見・早期解決に努め、全ての生徒が安心感を持って登校できる環境づくりを行う。</p> <p>(5) 規範意識の醸成と安全教育・健康増進の強化のため、挨拶運動や礼法指導を通じて社会人としての基礎力を養うとともに、専門機関と連携した交通安全・防犯・薬物乱用防止教育を強化し、心身の健康増進と安全意識の高揚を図る。</p> <p>(6) 三者面談や学年P T Aによるきめ細かな情報共有を行うとともに、ボランティア活動への参加や「ゆるい繋がりによる協力体制」を大切にすることで、地域と共にある開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(7) 学校間連携による教育活動の多角化と活性化のため、合同行事や連携事業を積極的に実施し、異なる環境で学ぶ生徒同士の交流機会を確保することで、多様な刺激を通じた特別活動の更なる充実を目指す。</p>
	<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>(1) 校訓「自彊不息」を理解し、自分と向き合い、今を大切にしようとする生徒</p> <p>(2) 自他の多様性を尊重し、主体的に進路実現を目指し、日々努力する生徒</p>

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p><b>【成果】</b>            昨年度は、本校にとって大きな転換期となった。常に自らを律して励み続けるという校訓「自彊不息」の精神を教育活動の根幹に据え、変化の激しい現代社会において自ら道を切り拓く力を育むべく、学校改革を強力に推進することができた。</p> <p>大きな成果として挙げられるのは、単位制の導入に伴う教育課程の柔軟化である。生徒一人一人の進路希望や興味・関心に合わせた履修選択が可能となった。これに連動し、授業改善推進プロジェクトチームを中心として「TTの効果的な活用」についても検討を重ねてきた。複数の教員が多角的に生徒に関わることで、きめ細やかな指導体制が構築され、学習意欲の向上に一定の成果が見られたことは、次年度以降の展開に向け、職員が指導方法のビジョンを共有することにつながった。</p> <p>また、本校の特色の一つである外国人生徒支援においては、教材の工夫などにより、学習支援や適応指導を組織的に展開した。単なる言語習得にとどまらず、多文化共生を基盤とした安心感のある教育環境の整備に注力した結果、多様な背景を持つ生徒たちが互いの文化を尊重し、共に高め合う土壌が着実に育まれている。</p> <p>さらに、鬼怒商業高校との学校連携型キャンパス制が本格始動したことも特筆すべき成果である。遠隔授業システムの試行導入や、学校行事、部活動における積極的な交流を通じて、単独校の枠組みでは実現し得なかった多様な学びの機会を創出できた。異なる環境で学ぶ生徒同士の交流は、生徒の視野を広げ、新たな価値観や刺激を受ける貴重な一歩となった。</p>	(1) 連携型キャンパス制により多様な学びを提供	①学校連携型キャンパス制の強みを生かし、特別活動を充実させる。 ②連携校との共同カリキュラム開発を通じて、生徒の探究的な学びと進路選択の幅を広げる。 ③遠隔授業がスムーズに実施できるよう、ソフト・ハード面の整備を行う。 ④連携校との教育内容や評価方法を検討する。	
	(2) 基礎・基本の確実な定着と学習意欲の向上	①教育内容や指導方法等を工夫・改善し、きめ細かな個に応じた「分かる授業」を実践する。 ②各自の目標設定を明確にし、達成に向けて努力することを支援する。 ③反復学習等により、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、AL型授業を取り入れ、生徒が自主的・意欲的に取り組む態度を培う。 ④自分の考えを整理し記述する、伝達する、他の発言を傾聴する等の指導を充実させ、各自の言語活動や自己表現能力を育成する。 ⑤個別指導・習熟度別指導・課外指導等を通して、学習への自信や学習意欲の向上を図る。 ⑥予習・復習や課題等を主体的に行うことを通して、学びの習慣化を促す。	
	(3) 基本的生活習慣の確立と規範意識や豊かな心の育成	①服装頭髪指導を通して「制服を美しく着る」「身だしなみを整える」ことを強化する。 ②授業や集会時における心得として、礼法や話を聞く姿勢を育成する。 ③挨拶や言葉遣い・態度等の礼儀作法を身に付けさせる。 ④公共マナー、社会規範や校則等のルールを遵守する意識を培う。特にSNSについて正しい理解と使い方を習得させる。 ⑤道徳教育や講話、読書等を通して、人を思いやる心、協力しあう心、感動する心等の豊かな心を育成する。 ⑥個別面談を密にし、保護者・スクールカウンセラー・外部機関等と連携・協力して、学校生活や進路、心の問題等への対応を適切に行う。	
	(4) 特別活動・体験活動等の活性化	①ホームルーム活動や部活動、生徒会活動等の集団活動を通して、心身の調和と個性の伸長を図るとともに、他を思いやり尊重する等の社会性を育成するとともに寛容な心を育む。 ②文化祭や体育祭、クラスマッチ等の学校行事を通して、協力する心や個々の責任感を育む。 ③生徒の自主的・自発的な活動を促進し、生徒会活動や部活動の活性化を図る。 ④キャリアパスポートを用いた生徒と対話を重視することにより、生徒の成長を促し、自己実現に向けて系統的な指導を行う。	

<p><b>【課題】</b>  新体制の運用を通じて明確になった課題も少なくない。単位制の定着に伴い、生徒の選択肢が増えた分、きめ細やかな履修指導が求められ、より複雑かつ細分化された授業に対応するための教職員間の情報共有の迅速化と、指導内容の平準化が喫緊の課題となっている。</p> <p>特に重要な課題として挙げられるのが「生徒の主体性の涵養」である。自由度の高い単位制において、そのメリットを最大限に享受するためには、生徒自身が明確な目的意識を持って学習に取り組む姿勢が不可欠であるが、依然として指示待ちの姿勢が見受けられる場面もあり、受け身の学習から脱却し、困難に直面しても「自彊不息」の心構えで粘り強く挑戦し続ける態度の育成に、学校全体で取り組む必要がある。</p> <p>外国人生徒支援についても、今後は教室内での日本語指導の充実に加え、卒業後のキャリア形成を見据えた支援が重要となる。地域企業や自治体との連携をさらに強化し、多文化背景を持つ生徒たちが社会で活躍できる具体的な道筋を提示していくことが求められている。</p> <p>鬼怒商業高校との連携に関しては、昨年度の試行実績をベースとして、より有機的かつ恒常的な教育プログラムへと深化させる段階にあり、単なる行事の共有に留まらず、教育資源を相互に活用した、より専門性の高い学びの提供を目指す必要がある。</p> <p>今後は、単位制の定着、学校連携の深化、そして外国人生徒支援の充実を軸に、生徒一人一人の主体性を引き出し、地域から信頼され、未来を切り拓く活気に満ちた学校づくりに邁進する。</p>	<p>(5) 望ましい勤労観・職業観の醸成と希望進路の実現</p>	<p>①早期から進路意識の醸成を図るとともに、自己の適性を理解することにより、進路選択でのミスマッチや早期離職の防止に努める。  ②生徒の進路希望を把握し、生徒一人一人の能力や適性に基づいた計画的なキャリア支援をする。  ③外部講師による講演会や企業見学・インターンシップ等を通して、望ましい勤労観・職業観の醸成を図る。  ④社会人としてふさわしい言葉遣いや礼儀作法、身だしなみを身に付ける  ⑤面談や面接指導を通して、生徒の進路希望の実現を支援する。  ⑥外国人生徒向けの進路講演会やインターンシップなどを通して、日本での就学・就業に向けて支援する。</p>	
	<p>(6) 保護者や地域社会等との連携・協力</p>	<p>①学校の情報を積極的に、かつ分かりやすく発信するとともに、保護者や地域社会等からの意見等を集約・検討し、教育活動の魅力を高めるなどして、一層の理解と協力を得られるようにする。  ②中学校訪問を密にし、情報交換を通して連携・協力を依頼し、中学校や地域社会等に信頼される学校を目指す。  ③ボランティア活動や地域の行事には積極的に参加し交流を深め、地域社会に根ざした学校を目指す。  ④多文化共生委員会を中心に関係機関と連携・協力を図るとともに外国人生徒・保護者の日本における学校教育についての理解を深め、円滑な学校生活が送れるようにする。</p>	
	<p>(7) 働き方改革</p>	<p>①勤務時間を客観的に把握・集計するシステムを適切に運用する。  ②業務の役割分担を見直す。  ③適切と言えない業務等を削減する。(部活動に係わる業務全般を含む。)</p>	
	<p>(8) 授業改善</p>	<p>①生徒による授業評価を生かし、観点別学習状況の評価に工夫を凝らすとともに分かる授業展開を目指す。生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価3.2以上を目指す。  ②授業改善推進チームを中心として授業改善に向けた検証と研修を重ね、主体的・対話的で深い学びをより重視した授業改善に努める。  ③総合的な探究の時間において教科等横断的な取組を進める。</p>	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	学習目標を明確にし、指導を工夫する。	生徒の習熟の程度を考慮した学習目標を設定し、年間指導計画に沿った「分かる授業」を展開しながら、各生徒の表現能力を育成する。		
		教員相互の学習指導の充実を図るために、教科間及び全職員対象に授業を公開し研修の場を設ける。		
	授業態度の改善を図る。	指導に適した教育環境・授業に取り組む体制を整え、1時間1時間の授業の大切さを自覚させて積極的に臨ませる。		
		学習意欲や学力に課題のある生徒に対して、放課後の個別指導や長期休業中の補講を実施するなどして個に応じた指導をし、学習意欲を喚起させる。		
教科	国語	基礎・基本の確実な定着を図る。	生徒の実態に合わせた授業形態の実施やプリント教材の活用など、適宜授業内容を工夫する。更に、小テスト等を複数回実施することで基礎・基本の確実な定着を徹底する。	
			副教材を活用し、長期休業期間の課題として設定した上で、定期的に漢字テストを実施し、基礎・基本の確実な定着を図る。また、文章を書く機会を積極的に設け、表現力の向上に努める。	
		学ぶ姿勢の確立と分かる授業の推進をする。	学習意欲に課題のある生徒に対して、計画的な指導を行う。	
			授業参観や公開授業など、研修の機会を利用して自己研鑽に努め、授業を創意工夫する。	
			ティーム・ティーチング等で分かる授業を展開し、生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価3.3以上を目指す。	
		漢字能力検定を奨励する。	漢字の読み書きに重点を置いた指導を通じて、漢字学習への意欲を喚起する。	
	漢字能力検定の積極的な受検を促し、国語への興味・関心を喚起する。			
	地歴・公民	基礎・基本の確実な定着を図る。	基礎的・基本的な知識の理解を通して地理・歴史的、公民的素養を養う。また、定期考査や小テストなどを実施して、知識の定着と習得を確認する。	
		学習指導の工夫を図る。	幅広い教養を身に付けられるように、教材や資料の利用を工夫し、また電子黒板を多用してビジュアル的に生徒が理解しやすい授業を行う。生徒の現状にあった授業進度・内容を展開し、生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価3.2以上を目指す。	
		学習意欲の向上を図る。	生徒が主体的・対話的な深い学びを実現できる指導体制を構築するとともに、生徒が意欲的に学習に取り組める課題を設定する。	
	数学	基礎・基本の確実な定着を図る。	学び直しの機会を設け、演習時間を十分に確保するなどして、基礎・基本の確実な定着を図る。	
			定期的にノートやプリントを点検し、望ましい授業態度の習慣を身に付ける。	
定期考査前の放課後に実施する勉強会や、長期休業中の補講を活用して、基本的な内容の理解を深める。				
進学希望生徒（大学進学・医療系）に対して必要な課外を行い、学力向上を図る。				
少人数による習熟度別授業やティーム・ティーチングの授業を展開し、きめ細かな指導を行う。また、その成果と課題を明確にし、改善を図る。				

教科	数学	分かる授業の展開と学習指導力の向上を図る。	生徒同士が教え合う環境を作るなど、生徒が主体的に授業に参加できるよう指導の方法を工夫する。		
			生徒の実態に合わせた教材を開発し、生活に役立つ基礎的な学習内容の定着を図る。		
			教科内で積極的に授業観察を実施し、授業内容・方法等について教科内で研究協議を行い、指導力を高める。		
			生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価3.2以上を目指す。		
	理科	基礎・基本の確実な定着を図る。	生徒の実態に合わせた教材を開発し、生活に役立つ基礎的な学習内容の定着を図る。		
			長期休業日や放課後の時間を利用し、成績指導を実施する。		
		学習指導の工夫に努める。	実験・観察・実習を積極的に行い、生徒が意欲的に学習活動できるようにする。		
			授業参観、公開授業等で学習指導の充実を図り、授業研究を推進する。 各種の発表会や研修会に積極的参加し、その結果を教科内で報告するとともに、自己研鑽に努める。		
	分かる授業の展開と学習指導力の向上を図る。	化学基礎・地学基礎では2人の教員によるTTの授業を展開し、きめ細かな指導を行う。また、化学基礎・地学基礎・生物基礎でタブレット端末を用いて、模擬体験やデータ処理を取り入れ、主体的な学習を推進する。			
		生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価3.2以上を目指す。			
	保健体育	基礎体力の向上を図る。	体力向上のための短時間走を毎時間実施する。自己の体力の現状を理解させ、体力を高める方法について学んだことが実践できるようにする。		
		集団行動の徹底に努める。	集団行動の意義や目的を理解し、集合・整列・挨拶など、自ら考え行動できる態度を育てる。		
		スポーツの楽しさや喜びを味わう。	生徒の実態に応じてグループ編制やルールに工夫を凝らし、誰もが運動する楽しさや喜びを味わえるようにする。また活動を通して他を尊重できる態度や協力し合える態度を育てる。		
分かる授業の展開と学習指導力の向上を図る。		教科内で積極的に授業観察を実施し、授業内容・方法等について協議を行い、指導力を高め、			
健康、安全への理解を深める。		科目「体育」「保健」を通して、自らの健康や安全に係る正しい知識を理解し、日常生活や学校生活において実践できるようにする。			
		鑑賞の指導を通して、豊かな感性を育むとともに心の教育の醸成を図る。			
主体的・対話的で深い学びをより重視した授業改善に努める。	生徒の実態にあった教材を精選し、指導内容の工夫・改善を図る。				
	タブレット端末をはじめとしたICT機器を利用し、生徒の実態にあった指導を行う。さらに生徒自ら課題に向き合い、自分の力で解決する力を育てる。授業満足度（KPI）で3.2以上を目指す。				

教科	芸術	芸術の良さや美しさを味わい、芸術を愛好する心情を育てる。	各単元において、興味・関心をもたせる工夫をする。また、知識・理解を高めるために必要に応じてICT機器を活用する。					
			鑑賞の指導を通して、豊かな感性を育むとともに心の教育の醸成を図る。					
	芸術	主体的・対話的で深い学びをより重視した授業改善に努める。	生徒の実態にあった教材を精選し、指導内容の工夫・改善を図る。					
			タブレット端末をはじめとしたICT機器を利用し、生徒の実態にあった指導を行う。さらに生徒自ら課題に向き合い、自分の力で解決する力を育てる。授業満足度（KPI）で3.2以上を目指す。					
	英語	学習目標を明確にし、指導を工夫する。	生徒の習熟度を考慮した学習目標を設定し、CAN-DO リスト、年間計画を踏まえた「分かる授業」を展開する。ALTとのチーム・ティーチングでは、手法を工夫し、英語に対する関心を高め、生徒の表現能力の向上を図る。					
		基礎・基本の確実な定着を図る。	苦手意識のある生徒でも前向きな姿勢で学習に取り組めるよう指導を工夫し、支援するなどして基礎・基本の確実な定着を図る。					
			学習につまずきのある生徒に対して、放課後の個別指導や長期休業中の指導等を実施することにより、基礎・基本の確実な定着を図る。					
		個に応じた指導をする。	指導に適した教育環境・授業に取り組む態勢を整え、授業の大切さに対する自覚を促し、積極的に授業に臨めるようにする。また、ノート・プリントなどの提出物を随時確認し、学習の理解度を把握し、自主的な学習態度を身に付ける。					
			少人数授業や習熟度別授業、チーム・ティーチングを展開し、個に応じた指導を通して、基礎・基本の確実な定着や応用力の向上を図る。					
			授業内容の確認課題・週末課題に取り組むことで、英語を積極的に学ぼうとする姿勢を育成する。					
	課外も含めて進学や資格取得に向けて個に応じた指導をすることで、意欲の高い生徒をより伸ばせるようにする。							
		生徒による授業評価を生かし、観点別学習状況の評価に工夫を凝らすとともに分かる授業展開を目指す。生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価 3.2 以上を目指す。						
家庭	分かる授業の展開と学習指導力の向上を図る。	生徒による授業評価を生かし、観点別学習状況の評価に工夫を凝らすとともに分かる授業展開を目指す。生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価3.2以上を目指す。						
	生活的自立のために必要な知識および技術の定着を図る。	ニュースや新聞および ICT 機器等を活用するとともに体験的な学習を実施し、より理解しやすい授業となるように工夫する。						
	実習では、個に応じたきめ細かな指導をする。	生徒による授業評価を生かし、観点別学習状況の評価に工夫を凝らすとともに分かる授業展開を目指す。生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価 3.2 以上を目指す。						
	自身の生活や将来について考え、自らの生活を創造しようとする姿勢を育成する。	製作物に関しては、完成・提出することを重視し、作業進度に応じて個別にきめ細かな指導をする。実習工程を、パワーポイントや手元のタブレットの両方で確認することができるようにする。						

教科	商業・情報	基礎的な知識・技術を身に付けさせる。	教科等横断的な学びを推進し、実生活や社会で起こりうる課題を多面的・多角的に捉え、主体的に意思決定できる力と選択肢の幅を広げる。		
		情報社会に積極的に関わる態度を育成する。	動画教材やオンラインコンテンツ等を活用し、情報モラルやデジタルシティズンシップに関する教育を体系的・継続的に推進する。		
		基礎・基本の確実な定着を図る。	「ビジネス基礎」および「情報処理」、「簿記基礎」においては、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、実践的な活用力の育成を重視する。		
		資格取得を奨励する。	資格取得を一つの目標とし、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。		
			「マーケティング」においては、課題解決力、論理的思考力の育成を図る。		
		分かる授業の展開と学習指導力の向上を図る。	課題や成果物については、デジタルツール等も活用しながら記録・蓄積・振り返り（ポートフォリオ化）を継続的に行い、生徒の学習意欲と自己調整力の向上につなげる。 教材の共有や ICT を活用した授業研究を推進し、指導方法の改善を図るとともに、「分かる・できる」を実感できる授業づくりを通して、生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価 3.2 以上を目指す。		
日本語	日本語教育の充実を図る。	日本語の基礎・基本の定着を図り、円滑な日常生活をおくれるように支援するとともに、日本の文化や生活への理解を深めることができるよう、授業づくりを行う。			
		日本語の授業等で、外国人生徒に対して国語科の教科学習への橋渡しを図る。			
		JLPT への積極的な受験を促し、日本語及び資格取得への興味関心を喚起する。			
		生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価 3.2 以上を目指す。			
教務	学習目標を明確にする。	各教科において単元ごとの到達目標を明確に設定し、評価基準と連動させながら、毎時間の授業のねらいを意識した指導を行う。			
		基礎・基本の確実な定着を図るため、反復学習や ICT 教材を効果的に活用する。小目標の達成を積み重ねることで、「学ぶ喜び」や「理解が深まる実感」を得られるようにする。			
		生徒一人一人の理解度や学習進度を把握し、学習データや形成的評価をもとに、内容や進度、指導方法の柔軟な調整を行う。（個別最適な学びの実現）			
	授業研究を推進する。	授業力向上のため、授業参観・公開授業・ICT を活用した授業研究などを実施し、教員同士の協働的な学びを通して指導力の向上を図る。			
		生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう、授業の形態や内容を工夫する。			
	学習環境を整える。	学習環境の整備に加え、授業規律や学習習慣の指導を重視し、生徒が安心して意欲的に学べる心理的安全性の高い環境づくりを行う。			
	教育活動の公表に努める。	学校ホームページやSNS、広報媒体を活用し、教育活動の発信を充実させるとともに、中学校訪問や地域連携を通じて、在校生・卒業生の状況を含めた情報発信を強化する。			
学校情報セキュリティの向上に努める。	ICT 環境の拡充に伴うリスクも踏まえ、人的・物的両面から管理体制を強化し、適切な運用を徹底する。				
学習端末等の管理及び利用の推進を図る。	タブレット端末や電子黒板、クラウドサービス等の ICT 環境を整備・活用し、情報共有や協働学習を促進するとともに、生徒の主体的・能動的な学びを支援する。				

	情報リテラシーの向上を図る。	基礎的な情報リテラシーに加えて、デジタル社会に対応した思考力・判断力・表現力の向上を図る。			
生徒支援	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	授業の充実を目指し、授業担当者は、授業態度・基本的生活習慣の指導を徹底するとともに、体調・時間管理能力の向上を図る。			
		各学年と連携して、毎日昇降口での朝の登校指導を実施し、挨拶の励行、服装頭髪等の規則遵守及び遅刻防止に努める。			
		教務部及び各学年と連携し、遅刻の多い生徒に対して指導を行い、遅刻防止に努める。また、集会等でSNSについての正しい理解と使い方の指導をする。			
		各学年と連携して、定期的に登校時及び下校時の校外指導を全職員で実施し、登下校時の交通マナー及び校外での生活態度等の確立を図る。			
		各学年と連携して、ルール・マナーの遵守を徹底させる。ルール・マナーを遵守できない生徒に対しては毅然とした態度で臨み、学校全体で組織的に指導する。			
		服装頭髪検査で指導対象となった生徒について、事後指導を徹底する。			
		学校生活を送るうえで特に課題のある生徒について、保護者を交えて指導するなど、家庭との連携を強化する。			
		スクールカウンセラーと連携して、精神面で不安や問題を抱える生徒・保護者に対してカウンセリングを実施し、状況の改善を図る。感情をコントロールする能力や自制心の向上を図る。			
		制服の正しい着用指導に重点を置き、特に女子の適正なスカート丈について指導を徹底する。			
		外国人生徒に向けた生活指導等の支援の充実を図る。			
喫煙防止、薬物使用防止についての意識を高める。	薬物乱用防止の講演会等を開催して、意識の向上を図る。				
	保健体育科と連携して、薬物乱用や喫煙、オーバードーズなどの健康被害に関する指導を充実させる。				
交通マナーについての意識を高め、交通事故を防止する。	地元警察署と連携し、交通安全講話を開催するなど、交通ルール・マナーに対する意識を高める。また、各学年及びHRでも交通ルール・マナーの周知徹底に努める。				
	自転車点検及びバイク点検を定期的実施し、安全運転を励行する。				
	バイク通学者には安全運転への意識の向上を図るために定期的な声かけを行う等指導を徹底する。				
進路指導	早期からの進路意識の醸成を図るとともに、計画的なキャリア教育を実施する。	進路ガイダンスや外部講師による講演、進路別説明会や体験授業を通して、適切な進路情報を提供するとともに、働くことの意義や職業についての理解を深める。			
		職業適性検査、クレベリン検査等を実施し、生徒の適性を把握して試験に備える。			
		進学希望者に基礎力テストや模擬試験などの受験を促し、現状の学力を把握する機会を与える。			

進路指導		「進路の手引き」や「進路だより」を発行して情報を提供し、ホームルームや面談で活用できるようにする。		
		生徒が必要な情報や資料を得られるように、進路教室を整備する。		
	望ましい勤労観・職業観の醸成を図る。	ハローワークや市と連携して、望ましい職業観・勤労観を醸成し、ミスマッチや早期離職の防止に努めることで、地域に貢献できる人材を育成する。		
		2学年でインターンシップを実施し、仕事や自己の適性を知る機会を与える。		
		就職希望者に企業見学への参加を促し、一人一人に合った進路の実現を支援する。		
		マナー講習会を実施し、社会人として必要な礼儀作法や身だしなみについて学ぶ。		
	進路目標の実現を図る。	進路希望調査を実施し、生徒の希望進路や適性を把握し、生徒の実情に合った進路行事を企画する。		
		就職試験対策・推薦入試対策として、面接指導や個別の学習指導を実施する。 オープンキャンパスや看護体験、公務員講座等の情報を提供し、積極的な参加を促す。 企業人事担当者、進学先入試担当者とのコミュニケーションを積極的に図り、進路情報を担任や生徒に提供できるようにする。		
保健厚生	教育環境・生活環境の美化、整備を図る。	通学路清掃や校舎内外の清掃をすることによって、地域社会との連携を目指し、美化意識の高揚を図る。また、感染症対策を徹底し、衛生管理に努める。 定期的に校内の安全管理・点検を実施し、学校事故の未然防止に努める。		
	健康維持・増進の意識向上を図る。	検診・検査等の実施を通して、生徒の健康について把握するとともに、生徒自らが健康管理の大切さを意識できるようにする。受診率100%を目指す。 救急救命講習を実施し、人命救助の正しい知識を習得し、適切な行動選択ができる実践力の育成を図る。		
	生命の大切さを学ぶ。	性教育講演会を実施し、性に関する正しい知識の定着や適切な意思決定・行動選択ができる実践力の育成を図る。1年次生徒は救命救急講習を受けることで、AED活用など積極的な救命実践を意識させる。 特別支援コーディネーター関係の研修に参加し、得た知識やスキル等を教職員にフィードバックすることで、生徒の心のケアに努め、生徒の自己解決能力の涵養を目指す。 健康相談を通して、生命の尊さや心の健康の大切さについて学べるようにする。		
	防災意識を高める。	防災訓練を年1回実施し、訓練の重要性を認識できるようにするとともに、防災意識の高揚を図る。		
	学校行事の充実を図る。	学校行事の内容を改善し、生徒のモチベーションを高めるよう創意工夫する。 企画・運営を生徒会や実行委員会が中心になって行い、主体的・対話的で深い学びが得られる参加型の学校行事を目指す。		
	ホームルーム活動の充実を図る。	学年や各校務分掌と連携し、生徒にペアワークやグループワークを経験させながら、充実したホームルーム活動を実施する。また、行事ごとに振り返りを行い、キャリアパスポートを活用することで、自らの成長を実感できるようにする。		

特別活動	生徒会・各種委員会活動の充実を図る。	生徒会役員と各種実行委員との連携を深め、生徒が主体的に取り組めるような行事運営を目指す。			
	部活動の活性化を図る。	新入生を対象に、部活動紹介・見学会を行い、1年次生の加入率3割を目指す。 インターハイ予選前に運動部壮行会を行い、部活動への参加意識の高揚を図る。			
	図書部の活動を充実させる。	生徒の読書活動を推進するため、広報活動を充実させ生徒の図書館来館者の増加を図る。			
		蔵書や資料を更新し館内を整備し、生徒・職員が利用しやすいよう工夫する。			
		季節行事を通して生徒に教養を身に付けさせるとともに、読書への興味・関心を涵養する。			
		「図書館だより」の制作を生徒に担当させ自主性を促す。			
	資料の収集・保管に努める。				
MCC (多文化共生)	互いの文化を尊重できる国際感覚を身に付けさせる。	キャリアワークショップ等を通じて、自国の文化への意識も高めつつ、他国の文化への理解・尊重を図る。 日本人生徒のキャリアワークショップ参加促進。			
	各校務分掌と連携し、外国人生徒支援の校務体制の確立を図る。	生徒支援部と連携し、すべての生徒が学校生活を支障なく過ごせるようにサポートする。			
		進路指導部と連携し、学年や個に応じた最適なキャリア教育を実施できるようサポートする。			
		各学年と連携し、学年PTAや三者面談等で翻訳や通訳手配等を通して最適な生徒支援ができるようサポートする。			
		職員研修を開催し、外国人生徒支援への理解を深め、教育実践に繋がるようサポートする。			
涉外	本部役員の負担軽減を図る。	年間の活動を精選し保護者・教職員の研修並びに交流を推進すると同時にPTA本部役員の負担軽減を図る。			
	PTAによる生徒指導体制の確立を図る。	PTA活動の状況、生徒の現況の把握、学校からの連絡等が広く行き渡るようにする。			
	基本的生活習慣を確立するとともに規範意識を高める。	欠席・遅刻・早退を減らすために健康管理と規則正しい生活ができるよう指導する。特に、3点時間(起床・就寝・家庭学習開始)を固定できるよう、保護者と連携しながら支援していく。			
	PTA活動の啓発を図る。	人間関係づくりの基本である気持ちの良い挨拶を励行し、時と場に応じた立ち振る舞いや言葉遣いができるよう他分掌、学年と連携して活動の充実を図る。			
1年次	基本的生活習慣を確立するとともに規範意識を高める。	きまりやマナー違反、及びSNS上も含めて他者に迷惑をかけるような行動に対しては、毅然とした態度で臨み、学年全体で組織的に指導する。過ちに対し、素直に潔く受け止め解決していく姿勢・態度を育む。			

	<p>基本的な生活習慣を確立するとともに規範意識を高める。</p>	<p>身だしなみ(制服の着方・頭髪等)について、日常生活のあらゆる機会を通して指導をしていく。また、必要に応じて生徒支援部と連携を図り、落ち着いた学校生活を送れるようにする。</p>			
		<p>保護者への連絡を密にし、生徒・保護者と教員が意思疎通を図りながら信頼関係を構築し、生徒の望ましい成長を支援する。</p>			
	<p>基礎・基本の確実な定着と学習意欲の向上を図る。</p>	<p>学び直しの時間を設け、既習内容の復習と苦手意識を克服させることで、高校への学習にスムーズにつながれるようにする。また、個に応じた指導ができるよう授業担当者間で共通理解を図る。</p>			
		<p>授業に集中して取り組めるよう学習環境を整え、授業担当者と連絡を密にとり、家庭学習課題にも誠実に取り組む姿勢を涵養する。</p>			
	<p>将来や適性について考え、自己に合った進路選択につなげる。</p>	<p>進路ガイダンスや進路見学会、HRでの進路学習や面談、なかまづくり活動を通じて、自己理解を深め、自分の進路について真剣に考え、適正な進路選択ができるよう支援する。</p>			
		<p>各種検定試験に向けて、自主的な学習ができるよう意識の高揚を図る。</p>			
		<p>生徒や家庭が個々の希望に合った判断ができるよう、進路の手引きを活用するなど適宜進路情報を提供する。</p>			
	<p>外国人生徒への支援に努める。</p>	<p>授業や学校生活全般をスムーズに行うため、県や外部団体と常に連絡をとりながら学年全体で共通認識を図る。</p>			
	2年次	<p>基本的な生活習慣を徹底する。また、規範意識の高揚を図る。</p>	<p>家庭と連携し、欠席、遅刻、早退をせず、毎日規則正しい生活を送れるよう支援する。</p>		
			<p>公共マナーや社会規範、校則等のきまりを遵守し、日常生活や学校生活が安心して送ることのできる態度を育てる。</p>		
<p>毎日の清掃や奉仕活動、委員会活動やHRでの役割に責任を持って取り組む姿勢を身に付けさせる。</p>					
<p>探究活動を通して他者を尊重する態度を養う。</p>					
<p>学年集会やHRでの服装頭髪指導を通して「身だしなみを整え、制服を正しく着る」ことができるようにする。</p>					
<p>気持ちのよい挨拶が人間関係づくりの基盤となることを自覚させ、時と場に応じた言葉遣いや行動ができるようにする。</p>					
<p>日常のあらゆる機会を通じて、自分と違う価値観を持っている相手に対しても、多様性を認め、尊重し合える寛容な心を育む。</p>					
<p>学習意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図る。</p>		<p>日々の授業を大切に、集中して取り組ませることや基礎的な内容を繰り返し学習させることで基礎・基本の確実な定着を図る。また、個に応じて発展的内容にも積極的に取り組ませ、学力の向上を図る。</p>			
		<p>個に応じた指導ができるよう、科目担当者と連絡を密にする。また、必要に応じて情報交換をして、生徒の学習状況に係る共通理解を図る。</p>			

2年次	具体的な進路の目標を決定し、その実現に向けて努力しようとする意識を高める。	将来の自分の在り方生き方を見つめ、どのような人生を送りたいかを考えることで正しい進路選択ができるよう HR や面談等を通して支援する。		
		インターンシップや進路行事及び HR での進路研究、進路の手引きの活用を通して、職業や進学先に対する情報を得ることで進路の目標を具体化できるようにする。		
		就職試験サポートドリルを活用し、就職試験に対応できる力をつけられるようにする。また、各種検定試験に向けて自主的・自発的に学習に取り組めるようにする。		
		進学希望者がより高い目標を持って学習に取り組めるよう、進路情報を適宜提供し、個別指導を充実させる。		
		修学旅行を実施するにあたり、授業や総合的な探究の時間等を活用し、事前・事後学習を行い、教育的効果を高める。		
2年次	基本的な生活習慣を徹底する。また、規範意識の高揚を図る。	クラスマッチや自彊祭などの学校行事に主体的な態度で臨ませることにより、自己有用感が高められるようにする。また、部活動や委員会活動の意義を示し、積極的な参加を促す。		
		家庭と連携し、欠席、遅刻、早退をせず、毎日規則正しい生活が送れるよう支援する。		
3学年	基本的な生活習慣の確立及び規範意識の更なる高揚を図る。	欠席・遅刻・早退を減らし、規則正しい生活が送れるよう指導の徹底を図る。家庭とは連携を密にし、必要に応じて保護者と面談するなどして指導の徹底を図る。		
		ルールやマナー違反に対しては毅然とした態度で接し、学年全体で組織的に指導できるようにする。		
		頭髪服装検査を毎月1回実施する。また、言葉遣いや態度等の指導を徹底する。継続して観察・指導を行い、必要に応じて生徒支援部と連携を図る。		
		学校と家庭が連絡を密にしながらか協力していくことにより、生徒や保護者との信頼関係を構築し、生徒の成長を支援する。		
	学習意欲の向上を図るとともに社会人として必要な学力を身に付ける。	一般常識ドリルの確認テストを「総合的な探究の時間」に実施し、基礎・基本の確実な定着を図るとともに一般常識を身に付ける指導を徹底する。		
		社会人として必要な学力の必要性を自覚させ、自ら学ぶ姿勢を育む。必要に応じて授業の担当者と話し合いをおこない、教員間の共通理解を図る。		
		教室の巡回指導を実施するなどして、生徒が安心して学習に取り組めるよう環境を整え、落ち着いた中で授業に取り組ませる。		
	希望進路実現に向けた指導に努める。	各ホームルームで「進路の手引き」を効果的に活用し、進路意識の高揚を図る。進路実現に向けて個々にあった的確な助言、援助を行うことで、自ら努力する姿勢を育む。		
		希望進路実現の助けになるよう、英検、漢検、JLPT、情報処理検定、ビジネス計算検定などの資格を積極的に取得させる。		
		大学進学希望者に対して、勉強会や模擬試験等を実施し、積極的な進学対策を推進する。また、就職・専門学校の希望者には、必要に応じて勉強会を実施する。		

3 学年	充実した学校生活を送る指導に努める。	クラスマッチや自彊祭などの学校行事に積極的に参加させ、振り返りの時間を十分とることで級友とのコミュニケーション能力を高められるように指導する。			
		担任との二者面談やスクールカウンセラーとの面談を活用して、悩みを抱える生徒の問題解決の援助をする。			

※ 評価規準：A；十分によい　B；よい　C；やや不十分　D；不十分